

農技セ第6518号
平成29年8月30日

各関係機関長 殿
病害虫防除員 殿

徳島県立農林水産総合技術支援センター
病害虫防除所長
(公印省略)

平成29年度農作物病害虫発生予察情報について

平成29年度農作物病害虫発生予報第8号を発表したので送付します。

平成29年度農作物病害虫発生予報第8号

平成29年8月30日
徳 島 県

I. 普通作物 普通期イネ

穂いもち

1) 予報内容

発生量 平年並(前年よりやや多い)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 8月後半の巡回調査では、発生圃場率が19.0%、発病穂率が0.2%と、平年(26.7%、0.6%)に比べてやや低い。
- (2) 8月3半旬に県西部(美馬市、東みよし町、三好市の11圃場)で行った葉いもち発病調査では、発生圃場率が45.5%、発病度が11.8であった。
- (3) 8月24日発表の1か月予報では、気温は高く、降水量は平年並か多く、日照時間は平年並か少なく、特に期間のはじめは気温がかなり高くなると予測されており、やや発生抑制的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 出穂後曇雨天が続いた場合は、穂揃期にも防除を行う。

紋枯病

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 8月後半の巡回調査では、発生圃場率が63.6%と、平年(62.6%)並の発生であるが、発病度は3.6と、平年(6.5)に比べてやや低い。
- (2) 8月24日発表の1か月予報では、気温は高く、降水量は平年並か多く、日照時間は平年並か少なく、特に期間のはじめは気温がかなり高くなると予測されており、発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 病斑が上位葉鞘に進展してくる穂ばらみ期～出穂期が薬剤防除の適期である。薬剤が病患部の葉鞘に十分付着するよう、株元に散布する。
- (2) 発生状況は圃場によって異なるので、圃場を見回り、病斑が第3葉鞘まで達している場合は、早急に防除を実施する。
- (3) 防除は県植物防疫指針に基づき、使用基準、特に収穫時期を確認(収穫14日前までの剤が多い)し、適切な剤を使用する。

トビイロウンカ

1) 予報内容

発生量 平年より少なく(前年並)、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 8月後半の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は、発生圃場率が9.7%, 株当たり寄生虫数が0.1頭)。
- (2) 石井町の予察灯においては、誘殺を認めていない(平年の8月中における誘殺虫数は2.7頭)。
- (3) 8月24日発表の1か月予報では、気温は高く、降水量は平年並か多く、日照時間は平年並か少なく、特に期間のはじめは気温がかなり高くなると予測されており、やや発生助長的な気象条件である。

コブノメイガ

1) 予報内容

発生量 平年並(前年よりやや少ない)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 8月後半の巡回調査では、発生圃場率が13.6%, 上位2葉の被害葉率が0.6%と、平年(21.7%, 0.9%)並の発生である。
- (2) 8月24日発表の1か月予報では、気温は高く、降水量は平年並か多く、日照時間は平年並か少なく、特に期間のはじめは気温がかなり高くなると予測されており、やや発生助長的な気象条件である。

II. 果樹

カキ

うどんこ病

1) 予報内容

発生量 平年並(前年よりやや多い)で、発生程度は「中」

2) 予報の根拠

- (1) 8月後半の巡回調査では、発生圃場率が33.3%と、平年(81.3%)に比べて低いが、発病葉率は13.2%と、平年(10.1%)並の発生である。
- (2) 8月24日発表の1か月予報では、気温は高く、降水量は平年並か多く、日照時間は平年並か少なく、特に期間のはじめは気温がかなり高くなると予測されており、やや発生抑制的な気象条件である。

炭そ病

1) 予報内容

発生量 平年よりやや少なく(前年並), 発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 8月後半の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は、発生圃場率が5.7%, 発病果率が0.1%)。
- (2) 7月6半旬に行った新梢における発病調査でも、発生を認めていない(平年同時期は、発生圃場率が2.0%, 新梢発病率が0.02%)。
- (3) 8月24日発表の1か月予報では、気温は高く、降水量は平年並か多く、日照時間は平年並か少なく、特に期間のはじめは気温がかなり高くなると予測されており、発生助長的な気象条件である。

果樹共通

果樹カメムシ類(ツヤアオカメムシ, チャバネアオカメムシ等) (8月18日付けで注意報発令中)

1) 予報内容

発生量 平年より多く(前年より多い), 発生程度は「多」

2) 予報の根拠

- (1) 7月第4半旬~8月第2半旬における勝浦町及び上板町での予察灯調査で、特にツヤアオカメムシが平年に比べて約2.5~3.0倍誘殺されたことから、8月18日付けで注意報を発令した。その後も、勝浦町及び上板町におけるツヤアオカメムシの誘殺数は平年に比べて多い。また、チャバネアオカメムシの誘殺数が両町とも8月第3半旬より平年に比べて多く推移している。

[ツヤアオカメムシの誘殺数]

月半旬	勝浦					上板町				
	2017年	2016年	2015年	2014年	平 年	2017年	2016年	2015年	2014年	平 年
8.1	293	32	17	468	109	9	3	6	3	5
8.2	346	66	20	228	124	15	1	7	2	6
8.3	494	101	8	205	136	68	8	5	11	7
8.4	507	37	18	264	99	60	8	4	20	9
8.5	359	107	10	135	74		10	5	9	5
8.6		93	9	59	81		64	0	22	18

[チャバネアオカメムシの誘殺数]

月半旬	勝浦					上板町				
	2017年	2016年	2015年	2014年	平 年	2017年	2016年	2015年	2014年	平 年
8.1	81	26	259	194	74	19	4	25	13	26
8.2	169	33	87	389	78	20	3	30	22	17
8.3	149	54	59	289	88	72	10	15	79	25
8.4	212	73	40	213	128	79	6	11	62	17
8.5	388	143	81	243	110		19	14	25	17
8.6		152	37	370	146		55	8	52	30

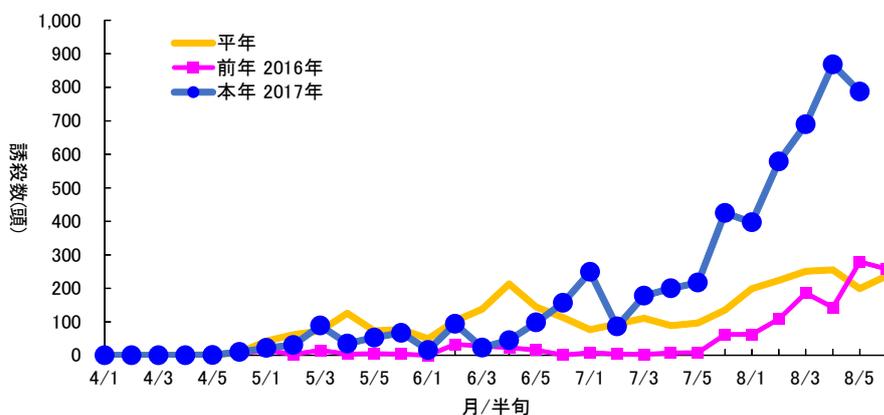


図1 予察灯による果樹カメムシ類(ツヤアオ+チャバネ+クサギ)の誘殺数(勝浦町)

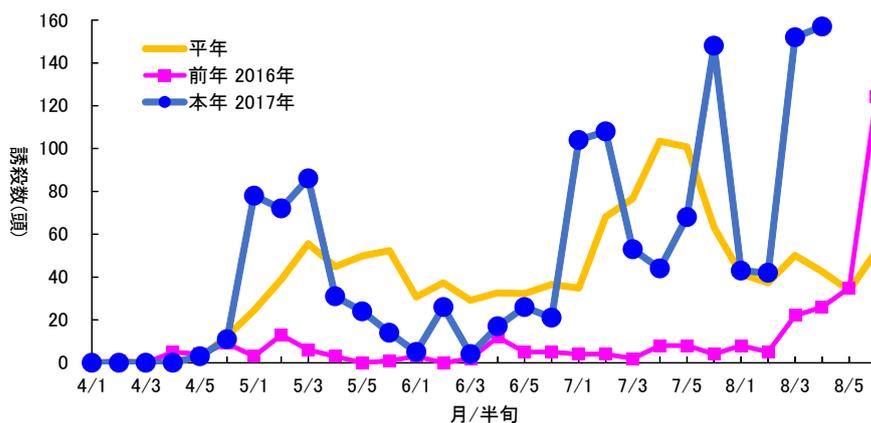


図2 予察灯による果樹カメムシ類(ツヤアオ+チャバネ+クサギ)の誘殺数(上板町)

(3) 8月24日発表の1か月予報では、気温は高く、降水量は平年並か多く、日照時間は平年並か少なく、特に期間のはじめは気温がかなり高くなると予測されており、発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 果樹園周辺の雑木林から成虫が飛来するので、園内を巡回し飛来に注意するとともに、飛来を認めたら早急に防除を行う。
- (2) 夜行性の虫なので、薬剤の散布は夕方か早朝に実施すると効果が高い。
- (3) 移動性が大きいので、広域一斉防除により防除効果の向上に努める。

Ⅲ. 野菜

夏秋ナス

うどんこ病

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 8月後半の巡回調査では、発生圃場率が75.0%、発病葉率が5.4%と、平年(55.1%, 8.0%)並の発生である。
- (2) 8月24日発表の1か月予報では、気温は高く、降水量は平年並か多く、日照時間は平年並か少なく、特に期間のはじめは気温がかなり高くなると予測されており、やや発生抑制的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。

アザミウマ類

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 8月後半の巡回調査では、発生圃場率が50.0%と、平年(56.5%)並の発生であるが、寄生葉率は1.3%と、平年(3.1%)に比べてやや低い。
- (2) 8月24日発表の1か月予報では、気温は高く、降水量は平年並か多く、日照時間は平年並か少なく、特に期間のはじめは気温がかなり高くなると予測されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。

ハダニ類

1) 予報内容

発生量 平年よりやや多く(前年並)、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 8月後半の巡回調査では、発生圃場率が62.5%、寄生葉率が5.0%と、平年(37.9%, 1.6%)に比べてやや高い。
- (2) 8月24日発表の1か月予報では、気温は高く、降水量は平年並か多く、日照時間は平年並か少なく、特に期間のはじめは気温がかなり高くなると予測されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。ハダニ類はほとんど葉裏に寄生しているので、防除の際には、葉裏に十分な量の薬液がかかるよう丁寧に散布する。
- (2) 同一系統薬剤の連用は薬剤抵抗性獲得の恐れがあるので避ける。

秋冬ネギ

シロイチモジヨトウ(8月2日付けで注意報発令中)

1) 予報内容

発生量 平年より多く(前年より多い)、発生程度は「多」

2) 予報の根拠

- (1) 8月後半の巡回調査では、発生圃場率が100%、50株当たり虫数が9.0頭と、平年(31.2%, 2.6頭)に比べて高い。
- (2) 6月第4半旬から7月第6半旬におけるフェロモントラップへの誘殺虫数(調査6圃場の平均)が、平年に比べて多かったことより、8月2日付けで注意報を発令した。その後、8月に入っても誘殺数は平年に比べて多く、8月第1半旬から第4半旬における誘殺数は、1044頭と平年(146頭)の約7倍の発生となっている。
- (3) 8月24日発表の1か月予報では、気温は高く、降水量は平年並か多く、日照時間は平年並か少なく、特に期間のはじめは気温がかなり高くなると予測されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 次世代の発生を抑制するためにも、被害を受けた植物残渣は圃場に放置せずに、確実に処分する。

- (2) 幼虫の齢期が進んだり、食害して葉の内部に潜むようになると、薬剤による防除効果が著しく低下するので、早期発見に努め、若齢幼虫期に防除を行う。
- (3) ネギの集団栽培地帯においては、フェロモン剤による防除が効果的であるので、適切に使用する。
- (4) フェロモン剤による交信攪乱効果は設置後3か月程度で低下してくるので、早めに交換する。

ネギアザミウマ

1) 予報内容

発生量 平年より多く(前年より多い)、発生程度は「中～多」

2) 予報の根拠

- (1) 8月後半の巡回調査では、発生圃場率が100%、被害度が7.2と、平年(28.4%, 0.8)に比べて高い。
- (3) 8月24日発表の1か月予報では、気温は高く、降水量は平年並か多く、日照時間は平年並か少なく、特に期間のはじめは気温がかなり高くなると予測されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。

ネギハモグリバエ

1) 予報内容

発生量 平年よりやや少なく(前年並)、発生程度は「少～中」

2) 予報の根拠

- (1) 8月後半の巡回調査では、発生圃場率は88.9%と、平年(93.0%)並の発生であるが、被害度は7.9と、平年(21.9)に比べて低い。
- (3) 8月24日発表の1か月予報では、気温は高く、降水量は平年並か多く、日照時間は平年並か少なく、特に期間のはじめは気温がかなり高くなると予測されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。
- (2) 被害葉は発生源となるので、絶対に圃場周辺に野積み・放置せず、速やかに処分する。

野菜共通

ハスモンヨトウ

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少～中」

2) 予報の根拠

- (1) 8月第1半旬～8月第4半旬のフェロモントラップへの誘殺虫数(調査10圃場の平均)は、519頭と平年(491頭)並の発生である(図3)。
- (2) 8月24日発表の1か月予報では、気温は高く、降水量は平年並か多く、日照時間は平年並か少なく、特に期間のはじめは気温がかなり高くなると予測されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 幼虫の齢期が進むと薬剤の効果が著しく低下するので、早期発見に努め、若齢幼虫期に防除を行う。

シロイチモジヨトウ(8月2日付けで注意報発令中)

1) 予報内容

発生量 平年より多く(前年より多い)、発生程度は「多」

2) 予報の根拠

- (1) 6月第4半旬から7月第6半旬におけるフェロモントラップへの誘殺虫数(調査6圃場の平均)が、平年に比べて多かったことより、8月2日付けで注意報を発令した。その後、8月に入っても誘殺数は平年に比べて多く、8月第1半旬から第4半旬における誘殺数は、1,044頭と平年(146頭)の約7倍の発生となっている(図4)。
- (2) 8月24日発表の1か月予報では、気温は高く、降水量は平年並か多く、日照時間は平年並か少なく、特に期間のはじめは気温がかなり高くなると予測されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 幼虫の齢期が進むと薬剤の効果が著しく低下するので、早期発見に努め、若齢幼虫期に防除を行う。

[フェロモントラップへの誘殺虫数]

(調査圃場の平均値)

月半旬	ハスモンヨトウ					シロイチモジヨトウ				
	2017年	2016年	2015年	2014年	平 年	2017年	2016年	2015年	2014年	平 年
8.1	92	115	138	67	93	190	24	11	93	28
8.2	178	175	108	83	111	182	62	7	11	27
8.3	129	125	112	62	117	223	40	25	10	27
8.4	120	172	100	86	170	449	42	56	5	37
8.5		293	187	184	226		174	57	12	101
8.6		705	232	288	331		561	93	11	146

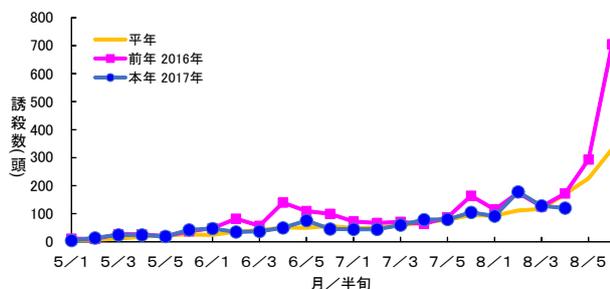


図3 ハスモンヨトウ フェロモントラップ誘殺数推移(野菜圃場)
※徳島市,石井町,阿波市,吉野川市,東みよし町,三好市の10地点平均

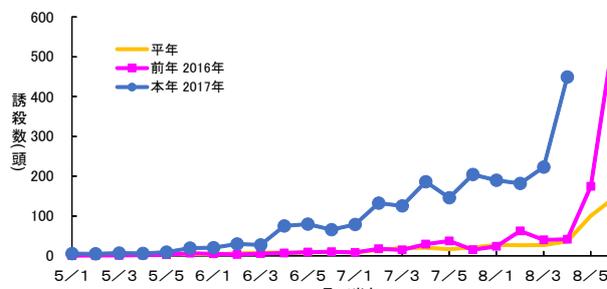


図4 シロイチモジヨトウ フェロモントラップ誘殺数推移(野菜圃場)
※徳島市,石井町,阿波市,吉野川市の6地点平均

オオタバコガ

1) 予報内容

発生量 平年よりやや多く(前年より多い), 発生程度は「中」

2) 予報の根拠

- (1) 7月第5半旬から8月第2半旬におけるフェロモントラップへの誘殺虫数(調査7圃場の平均)は、204頭と平年(81.6頭)の2.5倍誘殺されたが、8月第3半旬以降、誘殺数は減少し、8月第4半旬には平年並の誘殺数となっている。なお、本年の発生消長は、多発生となった2014年と似ている(図5)。
- (2) 8月24日発表の1か月予報では、気温は高く、降水量は平年並か多く、日照時間は平年並か少なく、特に期間のはじめは気温がかなり高くなると予測されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 幼虫が果実等に食入すると薬剤の効果が著しく低下するので、使用基準に基づき定期的な薬剤防除を行う。

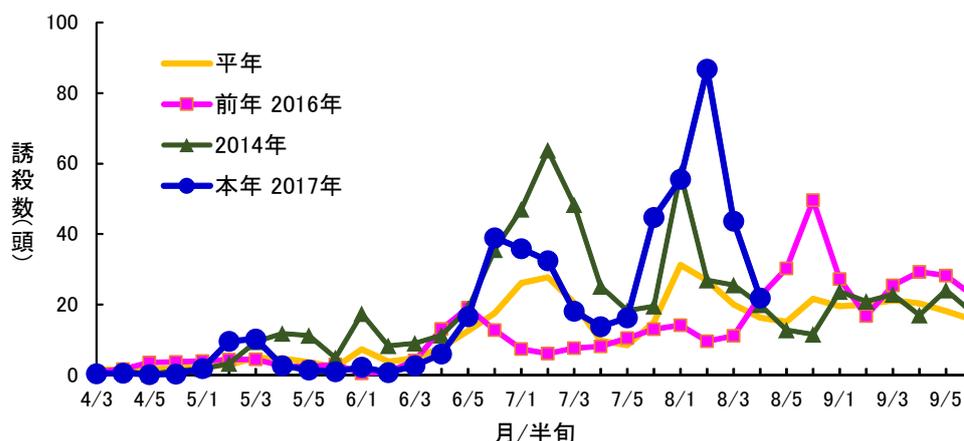


図5 オオタバコガフェロモントラップ誘殺数推移
※阿波市,三好市,東みよし町,石井町の7地点平均

IV. その他

- 1) 防除にあたっては、圃場をよく観察し、適期を逃さないようにする。
- 2) 薬剤の使用にあたっては必ず使用基準を遵守し、周辺作物等へ飛散しないように注意する。

発生量の表示

発生程度：甚>多>中>少>無

発生量：多い>やや多い>並>やや少ない>少ない

徳島県立農林水産総合技術支援センター病害虫防除所
URL : <http://www.pref.tokushima.jp/tafftsc/t-boujoshou/>

- 病害虫の発生予察情報, 発生状況, 防除法等をお知らせしています。